



TITLE:

朝鮮の水産業

AUTHOR(S):

蜷川, 虎三

CITATION:

蜷川, 虎三. 朝鮮の水産業. 經濟論叢 1938, 47(5): 692-705

ISSUE DATE:

1938-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131169>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第五號

昭和十三年十一月一日發行

論叢

勢力説に於ける存在拘束性……………

文學博士 高田保馬

經濟學の發展と新日本經濟學の性格……………

經濟學博士 石川興二

時論

綜合リンク制について……………

經濟學博士 谷口吉彦

支那法幣の發行準備及價值維持政策……………

十 龜盛次

研究

朝鮮の水産業……………

經濟學博士 蟠川虎三

滿洲建國精神と協和會の使命……………

經濟學士 中川與之助

說苑

經濟學の悲哀……………

經濟學士 中谷實

封鎖貨幣制度下の國際的再保險……………

經濟學士 佐波宣平

複式簿記法の傳播……………

經濟學士 岡本愛次

大量觀察と大數觀察……………

經濟學士 有田正三

附錄

彙報

外國雜誌論題

(禁轉載)

朝鮮の水産業

蜷 川 虎 三

水産業の時局的役割は國民食糧としての水産物の供給確保を第一義とするが、なほ工業原料としての利用部面を開拓し或は水産貿易による國際貸借調整への貢獻を大ならしむる等その使命は決して小なるものではない。¹⁾従つて今日に於ける水産經濟政策の問題は、如何にしてこの水産業の重大なる使命を十分に遂行實現せしめ時局打開の一翼たらしむるかといふことでなければならぬ。

併し、今日のところ、この水産業の時局的役割は必ずしも十分に認識されてゐるとは考へられない。現に非常時が叫ばれて數年に及び、日支事變が起つて一年を経過してゐるが今日に於てなほ水産業に就いて國策らしいものさへ立てられたことを聞いたことがない。また今日、資源愛護の聲は高いが、水界資源に就いて如何なる愛護の方策が講ぜられてゐるか。敢て北海道の鯨漁場の荒廢を擧げるまでもなく、我國沿岸漁場の自然的生産力の衰退の顯著なることは周知の事實であり、内陸水界（淡水界）もまたその例に洩れるものではない。若しこれに對し資源の保育を怠るならば果して國民食糧の供給を安價に豊富に長期に亘つて確保することが出来るであらうか。從來は、漁業を沖合遠洋に發展せしむることによつて水産業の進展の道を開かうとする意見が行はれ政策もさう

1) 拙稿「時局と水産業」經濟論壇昭和12年12月

いふ方向にとられたやうであるが、あらゆる機會に私が注意したやうに、沿岸を捨て、沖合遠洋に赴くことは單に水産業に於ける轉換であつて進展でもなければ發達でもない。而も漁業の性質上、沿岸漁場を荒廢に歸せしめて果して沖合乃至は遠洋漁業に永續性があるかどうか甚だ問題である。寧ろ經濟的なる沿岸漁場を保護涵養し、沖合遠洋漁業と沿岸漁業とが補完するといふ關係に置かれてこそ漁業の進歩があり水産業の發達がある譯である。殊に今日の如く燃料油、漁網その他大部分の漁撈手段に就いて制限せざるを得ざる状態となり、勞働力の補給に就いても問題を生じて来るやうになると經濟的漁場としての沿岸漁場の重要性はもはや論議の餘地がないであらう。曾ての沖合遠洋漁業への轉換論者は今日果して如何なる方策を我水産業に授けやうとするか。面目に囚れることなく、正しい道を歩むことが必要である。

從來の申譯的な不徹底な沿岸漁業對策の結果として、今日の沿岸漁場の状態はたゞに沿岸漁村民に生活の安定を得せしめないばかりでなく、この長期經濟戰下の國民食糧としての水産物の供給確保が可能であるかどうか必ずしも問題がないとはいへないであらう。述べるまでもなく經濟戰の最後の線は國民生活の線であり、この線が何處に在るか或は何處に引き得るかによつて戰爭を何處まで賄へるか、いはゆる長期も自ら限界づけられる譯であるが、國民生活の境界線は食糧の線であつて、この線を豊かに且つ安全に保持することは長期經濟戰に於て極めて重要な一問題でなければならぬ。従つて今日沿岸漁場の自然的生産力を保護涵養すると同時に、國民食糧としての水産物の供給を圓滑且つ十分になし得る方策を講ずる必要がある。

併しかゝる方策が内地の範圍に限つて行ひ得るものでないことは問題の性質上極めて明瞭である。従つてこれ

を外地及び滿洲國の沿海の漁業並に海外漁業に求めねばならぬことは當然である。然るに今日までのところ、かゝる意味に於て内外地に通ずる漁業政策的立場が確立されてをらず、従つて水産國策として指導されてゐない結果、我國の水産業をして時局的役割を十分に演ぜしめぬばかりでなく、内地の漁業の振興を妨げ外地の漁業の發達を阻んでゐる要素を多分に含んでゐるやうに思はれる。先般開催された東亞農林協議會の如きはまさにかゝる點を問題にし成果をあげるものと期待されたが、傳へられる所によると、少くとも水産業に就いては協議會自體が水産業今日の問題を把握してゐなかつたやうに思はれる。勿論これから何等かの新なる道が開かれるやうなことはなかつたのである。併しこれでは到底水産業の時局的役割を演じ得ぬばかりでなく内地外地の水産業の發展など思もつかぬことであらう。

大陸政策に呼應して大洋政策の確立されねばならぬ今日である。水産業に就いてもかゝる見地と方向から検討される必要があることゝ信ずる。ところが今日までの所では、かうした意味に於ける外地及海外漁業の調査研究は殆ど行はれてをらずその資料さへ必ずしも十分でない状態である。それで私は今後機會を得てこれらの方面の材料の蒐集と研究とを進めて見たいと思つてゐる。大方の御援助と御示教とを願ふ次第であるが、こゝには先づ朝鮮の水産業に就いてその概觀を得たいと思ふ。

二

朝鮮の水産業は、今日では北鮮の鰺漁業を以て代表されるといつても必ずしも過言ではない程鰺漁業は規模に於て組織に於て他の漁業を抑へてゐる。恐らく北鮮の鰺漁業は北洋漁業を除いては他に類を見ないのであらう

が、同時に朝鮮の他の漁業は著しくその影を薄くしてゐる観がある。一言にしていへば、東海岸の沿岸沖合の漁業は西海岸のそれと共になほ幾多の開拓の問題を残し、南海岸方面は既に内地と同様に漁場の自然的生産力の衰退の傾向が明らかであるにも拘らずこれが保護涵養の努力が致されてゐない状態である。鱈漁業の發展のため大いに方策を講ずることは勿論重要なことではあるが、同時に他の漁業に就いても積極的な對策があつて然るべきものと考へるが、何れかといへば内地と同様水産政策は閑却されてゐるかに思はれる。殊に今日の朝鮮は「前進兵站基地」と規定されてゐるが、然らばこの規定が水産政策の上に如何に現れてゐるかといふに必ずしも明らかではない。或はこの規定が水産政策の上に如何に現さるべきかはこの八月京城に開かれた時局對策委員會の當然の問題と考へられるが、それに就いて如何なる方針が與へられたか、勿論我々の知る所ではない。たゞ私の知る限りに於ては、かうした部面に於ても殆ど水産業は顧みられてゐないといふことである。

鱈漁業が花形だといふことはその生産額でも察せられる所で、まいわしの漁獲高及び製造高の合計は（昭和十二年）九千三百四十三萬八千七百六十三圓で全鮮の水産總生産高一億八千七百九十五萬三千九百五十八圓に對し四九・七%を占め、大雑把にいへば朝鮮の水産業の半分は鱈だといふことが出来る。漁獲高だけで見ると、まいわしの漁獲高三千四百十九萬三千八百九圓で全漁獲高八千九百九十二萬三百六十三圓の三八・三%に當つてゐる。次表に見る如く、めんたい以下二百萬圓以上の産額のあるものを合計してもまいわしに及ばない。

種 類	二百萬圓以上の漁獲高	
	價 額(圓)	全漁獲高に對する割合(%)
ま い わ し	三四、一九三、八〇九	三八・三
朝鮮の水産業		

1) 朝鮮總督府殖産局水産課調、昭和十二年水産生産高表
2) 原數字は前掲の生産高表に據る

朝鮮の水産業

第四十七卷

六九六

第五號

九六

め	ん	た	い	六、四八三、〇五九	七・二
さ		ば		六、〇二三、二一六	六・七
ぐ		ち		四、七六三、五三七	五・三
か	た	く	ち	三、〇〇七、一九〇	三・五
に	し		ん	二、六八二、〇九三	三・〇
た	ち	う	お	二、五四一、二五九	二・八
え		び		二、一二三、九五〇	二・四

即ち二百萬圓以上の漁獲高のあるものは八種で、全漁獲高の六九・二%を占め、百萬圓以上の漁獲高のあるものは、かれい、あじ、たら、たい、さわら、ひらめ、の六種で合計價額七百八十八萬八千五百四十七圓で全漁獲高の八・八%を占めてゐるから、これら十四種で全體の七八%まで占めてゐることとなる。先づこれらが朝鮮の漁業を代表するものといつていゝであらう。報告されてゐる所によれば朝鮮の重要水産物百二十種、魚類七十五、貝類二十、藻類十五、その他の水産動物十種といはれるが、その數量に於て二一・一六千噸、右の十四種で約八九%を占めてゐる。

これを地方的に見ると、次表に示す如く、黃海道の漁獲高三百十八萬圓が十三道の中央の値であり、東及び南海岸の地方はこれより上位を占め西海岸の地方は著しく下位に在る。

順位	道名	道別漁獲高 (昭和十一年)	最高の漁獲高を示す魚種と價額	最高漁獲高の占める割合(%)
1	咸北	一六、四五二	一三、九二二(まいわし)	八四・六
2	慶南	一三、一七三	二、〇六〇(かたくちいわし)	一五・六

	咸	全	江	慶	黃	平	忠	全	京	平	忠
3	南	南	原	北	海	北	南	北	畿	南	北
一、二、六五七	一〇、三六四	九、〇〇二	六、四一三	三、一八八	二、二四二	一、八一七	一、七六〇	一、六〇九	一、一八九		
五、三三四(めんたい)	一、〇四七(きば)	五、八四七(まいわし)	一、六六五(まいわし)	一、四二八(ぐち)	九九八(ぐち)	三八九(ぐち)	二四七(ぐち)	一九九(えび)	一八二(はまぐり)		
四二・一	一〇・一	六五・〇	二六・〇	四四・八	四四・五	二一・四	一四・〇	五七・一	一五・三		

要を（國民食糧として低廉豊富なることを條件とする）満足することさへ決して十分ではなく、況んや前進兵站基地として食糧供給の使命がどれだけ果せるか問題であらうと思ふ。特に滿洲及北支方面の需要の増大するときこの方面への供給のため水産物の價格騰貴は免れないであらうが、このことは國民食糧としての水産物の意義からいつて好ましいことではない。從來水産物はその鮮度の維持の困難と配給機構の不備のため價格を叩かれることが多く魚價の低いことが嘆じられることが多かつたが、併し國民食糧としては低ければ低い程いいので、たゞ問題は生産者の生産費並に生活費が魚價に比し著しく高くなることにある。従つて漁村の更生や漁業者の保護のためには魚價をあげるのではなくその生産費及び生活費を高めずに寧ろ下げることを問題でなければならぬ。殊に今日の漁業の組織の下では、魚價が上つても漁師そのものゝ利益はそれ程に多くなるものではなく利益の大部分は關係商人の手に歸してゐるので、魚價の高くなること自體は必ずしも生産者たる漁業者の利益ではない。而も長期經濟戰下の時局を賄つてゆくのは國民大衆の力であり、國民食糧の供給に於て十分であり價格を下げ得るなら、この力はどこまでも増大し得るのであるから、この點に於て、水界資源の開發は、更に重要視されなければならず、朝鮮の東海岸の如きはもつと力をそゝがれていゝと思ふ。

東海岸の重要水族は多く洄游性の魚族であり技術的には先づこの方面の海洋調査と魚族の洄游の調査研究が必要である。この點に就いて朝鮮總督府は相當の理解を有し試験場は科學的な調査を行つてをり、殊に魚族の生活史の研究など、從來直接産業的效果なきものゝ如く誤解されて廣く行はれなかつた困難な事業が總督府水産試験場で着々行はれてゐる如きは水産日本のため氣を吐くものと思はれるが、併しかゝる調査研究は單なる朝鮮沿海のためばかりでなく、日本を圍む海洋の問題であるから、日本政府として調査研究の方針を立て各地方にこれを

實施せしめ綜合研究すべきものと考へる。朝鮮東海岸の漁業の發展の問題にしても、舞臺は日本海であり、この沿海地方の協力に依らねば眞の調査は不可能であらう。而も北部からは寒流が南下し南部からは暖流が北上して沿岸を洗つてゐるので、これら暖寒兩流の洗ふ地方が相互に一定の方針の下に調査研究に従事することが必要と考へる。潮は流れ魚は移動するにも拘らず、行政的に内地だ外地だと區別し、また各地方を區劃する結果、あつて得る調査結果もまた試験成績も不十分に終ることは免れ得ない所である。場所は朝鮮の東海岸であるが、かゝる點で國策的に而も根本的に問題が解決されぬ限り眞の水界資源の開發は難しいことと考へる。

現に北鮮の鰺漁業は今日極めて盛であるが、漁業經營者の最も不安に感じてゐる點はこの漁業がいつまで今日の活況を繼續し得るかの問題である。勿論漁業經營者の問題にする所はその商品化ではなく、いつまで鰺がとれるかの一事にかゝつてゐるやうであるが、この不安はまた年々漁期ごとにその豐凶として問題にされてゐる。鰺の定置漁業を主とする北海道の鰺漁業と違つて機船巾着網漁業を主とする北鮮の鰺漁業は洄游群を探す方法があり現在では飛行機まで利用してゐる状態であるから著しく豐凶の變化があるとか、急激に鰺の姿を見ないやうになるとかいふ事情は起るまいと想像はされるが、産卵地方の状況や繁殖の如何、洄游並に洄游區域の海況、漁業地方の沿岸の状況、等々に變化を生ずれば、鰺漁業に必ずしも變化なしといふことは出来ないであらう。ところが、今日の所未だ鰺の日本海に於ける洄游状況は必ずしも科學的に明確に擱まれてゐるとはいへない状態に在る。従つて鰺漁業の經營者は、若し今日不安を感じるならば現状に酔ふことなく率先してかゝる調査の實際化に乗出すべきものと考へる。而してこの點に就いては、單に北鮮の鰺漁業經營者のみの問題ではないから、朝鮮としてまた日本全體として方策を講ずべきものである。而してその結果は恐らく鰺の正體を明らかにすることだけ

に限られず日本海を明らかにすることゝなるであらう。

次に地方的に必要とされることは漁業試験と沿岸漁場の保護涵養並に利用である。

東海岸方面は前掲の表示の如く、漁業が著しく偏してゐるが、他の漁業が伸びる餘地がないのかどうか、その自然的並に經濟的事情を明らかにして對策を講ずる必要があらうと思はれる。今日のところ朝鮮沿海の漁場の自然的生産力に就いては何の資料もないから何ともいへないが、全鮮の海岸線一七、五八〇浬(内地二八、一六〇浬)、百尋線内の水界の面積七五〇千平方浬¹⁾(内地一四四〇千平方浬)、漁業人口三八二、一〇八人(内地一、五三四、四三二人)、漁獲高七九、八七九千圓(内地三〇〇、一三一千圓)、漁船數四九、一二五隻(内地三六六、二六七)昭和十一年末)で、漁場面積十五平方浬に就いて見ると左の如く朝鮮は内地に比しなほ著しく低いことが知られる。

朝鮮	漁獲高	漁業人口	漁船數
内地	一、五九七圓	七、六八	〇・九隻
三、一二六	一五・九	三・八	

なほ漁船に就いては動力を有するもの二〇一五隻で總漁船數の四%にしか當らず内地の一七%に比すれば大なる差があるばかりでなく動力を有せざるものでも、總數四七、二一〇隻に對し朝鮮型の漁船がなほ二〇、七〇八隻即ち四三・九%を占め、また十米以下のものが七五・六%を占めてゐる状態であるから、漁獲力に於て決して十分に發達してゐるとは見られない。従つてこゝに漁業試験を行ひ、漁場の探險、漁具、漁法の研究を行ふと共に、如何なる組織を以て漁業を經營し、漁獲物を如何に商品化するか、等の經營方面の研究を併せて行ふことが必要である。勿論各道の水産試験場はいはゆる漁業試験を行つてはゐるがそれは單なる漁撈試験で(これは内地も同じことである)、漁撈の技術的指導には重要なものであるが、これだけでは一個の産業としての漁業を確立する基

1) 但し西南兩海岸は距岸平均約III浬

2) 朝鮮の水産業 P. 4.

礎を與へ得るものではない。この點では内地に於ける失敗の實例を多く擧げることが出来るであらう。

殊に朝鮮に於ては國民食糧の確保、前進兵站基地としての使命の達成といふ方面より、新なる立場から漁業を振興しその基礎を確立して行かなければならないから、單に地方的な事情からばかりでなく、朝鮮としての漁業の振興確立の方針を定め、この方針に従つて各地方が漁業試験を施行する必要があると思はれる。勿論、この場合東海岸は東海岸として聯絡し協力して漁場の開拓と漁業の確立を圖るべきものと考へられるが、今日のところでは、朝鮮としての方針もなければ、各地方としても必ずしも確たる計畫をもつてゐる譯ではない。極言すれば、たゞ捕れるものを捕り商品化し得るものを商品化してゐるといふだけの話である。例へば咸南のめんたいの如きはその地方の漁獲高の四二%までも占めてゐる漁業であるが、統計に示される所によると可なり漁獲數量に變動があり、而も必ずしも増加の傾向を辿つてゐるものとは考へられぬが、鮮内の必需品である以上、これが生産確保とこれに依存する漁業者の經營の安定性とは重要な問題でなければならぬ。併し今日のところめんたい漁業に就いてさへ何等確立された方針を以て指導されてはゐないのである。この點に就いては、朝鮮も内地と同様水産は無軌道の傾向がある。私の見る所では、今日行はれてゐる有力な漁業に就いても、全鮮の漁業生産の立場から確立した方針を以て當該漁業の生産の維持發展を指導統制する必要がある、その地盤として各種漁業に適應した協同化の組織をつくる必要があると考へる。殊に朝鮮の漁業は在來の漁村によつて立つ所の小規模の沿岸漁業を除いては主として内地よりの移入漁業であり小規模ながら經營は資本家的形態をとつてゐる性質上、水界資源愛護の點に就いては全く無視されてゐると共に、それが小規模なる點に於て自然的並に經濟的危險を克服する道なく漁業經營の健實性に乏しいといはなければならぬ。従つて若しこれをこの儘に繼續すれば漁場の自然的

生産力の遞下は寧ろ内地よりも速かと考へることが至當であり漁業としても健全なる生長は寧ろ覺えないと見るべきではあるまいか。協同化の必要は、従つて漁業經營者の立場に於ても國家的見地に於ても認められなければならぬ。

現在では、機船底曳網漁業水産組合(四)、潜水器漁業水産組合(四)、いわし或はさばの機船巾着網漁業水産組合(三)など水産組合の形式によつて協同化の一端の目的を果してゐるが、その機能する所は専ら同業組合的のもので、漁業がその性質上要求する協同化乃至は協同性とはなほ距離のあるものである。併し今日の法制の下ではこの組織の形式をとるより他はないから、その運用に於て漁業の協同化の目的を實現するやう努力すべきであると共に、これを指導することを怠つてはならぬ。同じ水産組合でも水産物の製造乃至は販賣の水産組合と漁業の水産組合とは自らその性質に異なるものがあることを注意し、特に組合員の指導と認識の徹底に意を用ひる必要がある。

以上の諸點は朝鮮の漁業の開発上注意すべきものと考へるが、これに加へて沿岸漁場の保護涵養とその利用とは、今日の漁業が右に述べたやうな經營形態をとる以上特に留意される必要がある。沿岸漁場は單に沿岸定著性の水族の繁殖場であるばかりでなく、これが涵養されることは洄游性魚族を誘引するもので、漁業の發展上これが保育は常に注意されなければならぬ。ところが現在の朝鮮の漁業に於ては主要なる漁業のみに意を用ひ、沿岸漁場の涵養の見地から沿岸漁業の保育に努めてゐる事實は殆ど見られない。若し現状の儘で行くなら朝鮮の漁業の行詰は寧ろ内地よりその速度に於て早いのではないかといふ感想を抱く理由の一つは實にこゝに在る。

また沿岸性の水族にはその漁獲量に於て必ずしも大ではないが、嗜好品的に食用されるものが多く、これが生

産は洄游性魚族の大量的生産に對し特殊なる産業的意義をもつものであり、漁業の開発上看過すべからざる重要性をもつものである。この點に就いては東海岸より南部の慶南全南の沿岸が適地であることは明らかであるが、だからといつて東海岸方面が全然捨て去らるべきものではなく、かゝる見地から沿岸の開拓と利用に努力さるべきものと考へる。

なほ北鮮方面は今後工場地帯として可なりの重要性をもつべく、沿岸に於ける工業の發達と沿岸漁場の生産力の衰退とは内地の實例に於ても不可避であり、朝鮮に於ても豫め注意して置かねばならぬ問題と考へる。殊に沿岸漁場の荒廢は單なる沿岸定著性の水族の減少にとどまらず洄游性魚族の來游に影響する所が大であるから、まいわし、めんたいの漁業を主力とする朝鮮の漁業にとつては重大な問題でなければならぬ。その意味に於て、今日に於て沿岸漁場の保護涵養繁殖保護等の計畫を確立しその事業を一日も早く實施する必要があると考へる。

三

朝鮮の水産業は、先にも述べたやうに、東及び南海岸が中心で西海岸方面は寧ろ不振の状態に在る。而してまた、水産業として看過されその開發が遅れてゐるやうにも思はれる。併し、東海岸にしても、まいわし、めんたい、さばの洄游し來る惠まれたる自然的條件に浴してゐるだけで、より積極的に水界資源の開發が行はれてゐる譯ではないから、敢て西海岸のみが看過されてゐるともいへないかも知れない。たゞ西海岸方面は、黃海が深度淺く最深百米以内といふ淺海であり、冬期北部は結氷或は流水のため漁業が不能であると共に沿岸は干満の差大なるため干瀉地帯が廣いといふやうな自然的條件を克服利用してこの方面の漁業を確立し資源開發を圖るといふことに就いては今日までの所餘り努力されてゐないことだけは事實である。

黃海が溫帶性魚族のよき攝餌場であり、また産卵場であることは報告されてゐる所であるから、この淺海の漁業を如何に振興するかは一個の問題である。今日までの所では、魚群の分散しその集團の小なる結果概ね小漁業より成立してゐないが、同じ淺海でも黃海の舞臺は内灣とは異なるから、漁期と魚群を追ふて黃海一圓を移動する沖合漁業の協同組織體を形成して漁業を經營するが如きは一つの方法ではあるまいか。今日の如き内灣式の小漁業經營を以てしては朝鮮側よりする黃海の開発利用は恐らく困難であらうし、また西海岸の水産業を振興する所以でもないであらう。また現に行はれてゐる沿岸漁業に就いては、小漁業者の保護の見地から、また沿岸漁場の自然生産力保持の立場から、生産部面に於ける協同化が特に重要であると考へられる。この點に就いては漁業組合の活動に俟たねばならぬ。朝鮮の漁業組合並にその活動に就いては別の稿に改めて述べる豫定であるからこゝには論じないが、その組織化系統化は確立されてをり、販賣並に資金の融通の部面に於ける事業活動は相當成績をあげてゐるが、生産部面の協同化に就いては殆ど指導の力を示してゐないやうに思はれるし、系統機關に於ても別に方針を示してゐないやうである。若しさうだとすると、漁業組合の機能は漁場の生産力涵養の方面には殆ど働かないことになるし、また一部の漁業者には極めて有利な機關ではあるが小漁業者にはそれ程でもないといふことになるかも知れない。

西海岸の漁業に關聯してその養殖事業並に干潟地の利用問題は看過することが出来ない。朝鮮の養殖生産高は四百七十四萬七千圓であるが、その中のりの養殖が四百二十萬圓で八八・五%を占め、全南、黃海、慶南の諸道が主たる産地であるが殊に全南は全體の八九・五%まで占めてゐる。のりの養殖は更に増大し得るであらうし、かきその他の貝類殊に干潟地の利用が技術的に研究されれば貝類の増殖部面は大いに擴大されるであらう。この點

では純技術的な研究の進歩を期待しなければならぬが、西海岸方面の開発の重要な問題で、その奨励と促進とは急務であらう。

最後に淺海漁業の開発問題として、漁獲物の商品化殊に製造加工により新なる商品化の道を開くことは注意されるべき事である。ところが今日、朝鮮の水産製造は極めて單純で、水産製造價額七千九百萬圓中食用品は三九%の三千一百萬圓で、而も素乾、煮乾、鹽藏が大部分を占め、非食品としてはいわし油、搾粕、魚粉が主である。勿論、從來の鮮内の需要關係並に漁獲物の大量的なるものを扱ふ結果として當然かゝる結果になることは認められるが、また淺海の水族を利用して特殊の價值ある食品を製造し、擴大する漁業生産に對應する方策を講じて置く必要がないであらうか。また、食品としてゝなくとも、水産物が藥品その他の工業原料として、特に代用品工業の原料として利用される範圍は益々廣くなることと思ふが、朝鮮の水産製造が内地と同一の道を踏まずに新境地を開拓すべき所があるやうに思はれる。殊に西海岸の水産物の利用は朝鮮水産製造に於ける一課題であらう。

×

×

×

朝鮮の水産業に就いては、漁業のみならず養殖業、製造業の各方面から研究して見る必要があり、また經濟及び行政の狀態並に漁業を中心とする水産業の經營に就いて問題にすることが必要であるが、本文に於てはそれらを個別的に扱ふためのはしがきの意味で極めて概括的に朝鮮の水産業を見たに過ぎない。殊に今日の北鮮の鱈漁業は朝鮮の水産業に於ける第一位に位するものであるが、別稿「朝鮮の鱈漁業」に於て詳論するためにこゝには特別に觸れなかつた。